

読んでさいたま

2025
vol.05
Autumn

さいたま市私立幼稚園協会新聞 第5号 令和7年（2025）秋号



現さいたま市長の清水勇人氏は、長らくさいたま市私立幼稚園 P T A 連合会の会長職に就いてこられたという実績があり、幼児教育に非常に理解のある市長さんです。そこで、今号の「読んでさいたま」では、清水浩会長と、清水勇人市長・竹居秀子教育長がそれぞれ幼児教育についての思いを語り合った対談を掲載いたします。どうぞお読みください。

これからの幼児教育を さいたま市とともに担ってゆく

市長 まず一つ目は、高校3年生の時にベトナム戦争で取材をしていたフリーのカメラマンの方と会う機会がありました。とにかく戦争の悲惨さをたくさん聞かせていただいて、すごく衝撃を受けました。以来戦争についてすごく関心を持つようになって。それで大学時代はタイや中東の難民キャンプでボランティアをしたり、いろいろな視察をしたり。卒業後松下政経塾に入塾し、国際政治家を目指して、いろいろな支援活動や、戦争をなくすための活動ができればと考えていました。その後、「地域から日本の世界を変えていく」という発想に変わりました。そのきっかけは、日本中のいろんな場所に研修に行き、改めて日本の様々な地

域を見ました。それまでは、日本は経済成長もし、貧しくて、貧困や飢えで食えることもできない人がそんなにいないとも思ってもいたし、戦争があるわけでもないと思っていました。でも見方を変えると、日本においても様々な課題を抱え、大変苦勞されている方もたくさんいるし、それぞれの地域で抱えている問題も多いことがわかった。そういったことをきっかけに、将来はまず自分の理想とする街を、みんなが幸せを感じ、夢や希望を持ったまち（都市）を自ら作りたいという思いで、それで将来市長を目指すという気持ちが生まりました。

市長 はい、よろしく願います。

司会 清水市長が市長になろう、というお気持ちが生まれた原点はどこにあったのですか？

市長 まず一つ目は、高校3年生の時にベトナム戦争で取材をしていたフリーのカメラマンの方と会う機会がありました。とにかく戦争の悲惨さをたくさん聞かせていただいて、すごく衝撃を受けました。以来戦争についてすごく関心を持つようになって。それで大学時代はタイや中東の難民キャンプでボランティアをしたり、いろいろな視察をしたり。卒業後松下政経塾に入塾し、国際政治家を目指して、いろいろな支援活動や、戦争をなくすための活動ができればと考えていました。その後、「地域から日本の世界を変えていく」という発想に変わりました。そのきっかけは、日本中のいろんな場所に研修に行き、改めて日本の様々な地

市長 一つは、子育てについて言えば『子育て楽しいさいたま市』を作る上で、特に親と子の絆を深める。そういった子育て支援をしていこうというのが一つ。今、日本全体が子どもも中社会の実現をしていこうということを取り組んでいて、特に切れ目のない

会長 清水市長の理想とする街には、恐らくは笑顔いっぱい家族の姿もあり、それが今の子育て支援につながっていたのだと想像します。さて、市長は市民誰一人と取り残さない、幸せを実感する都市への進化をまずマニフェストに挙げておられますが、この先さらに特に力を入れていきたいと思っておられる子育て政策、子ども支援政策は何かございますか？

清水勇人市長と語る

「子育て楽しいさいたま市」

幼稚園・認定こども園の

こんなところがいいところ!!

先生と親で、一緒に温かく成長を見守れるのがうれしい。

行事が充実していて季節感があるところ。親も送迎が楽しみ。

先生たちの環境づくりがとても上手。家ではできない思いきった遊びがたくさんできるところ。

子どもが楽しいと思う経験がいろいろできるところ。今まで一度も行きたくないと言ったことがないんです。

将来に向けて幼児教育を受けさせたかった。働きながら預かり保育を利用して通えますよ。

先生たちが環境づくりがとても上手。家ではできない思いきった遊びがたくさんできるところ。

子どもが楽しいと思う経験がいろいろできるところ。今まで一度も行きたくないと言ったことがないんです。

パパも幼稚園で一日先生体験したよ!

Q 一日先生体験をするきっかけは?

A 一年ほど前に妻が体験しており、そのときの感想や体験などの話を聞き、自己啓発活動の一環になるのではないかなと思ったことと、子どもからお願いされたため。

Q 体験への思い

A ビフォー

体験前までは先生方や子どもたちの園生活に支障をきたさないか、どう接すればよいかな不安な部分はありました。

アフター

実際に体験してみると、先生方や子どもたちに温かく接していただき、とても有意義に過ごせました。

Q 体験してよかったこと

A よかったこと

園生活を一緒に過ごしたことで幼稚園自体との心理的な距離が縮まったことです。行事等に、より前向きに参加する意欲が湧きました。また、家では見られない社会性を持った子どもの姿に触れられたことも非常に良かったです。

苦勞したこと

一人一人の個性があるので、それに合わせた接し方をしないといけないのは大変だと思いました。

賛助会員／株式会社パステル社 教育産業株式会社 株式会社埼玉ワンダー社 株式会社ジャクエツ 有限会社トライ
株式会社ジャクバ 千株式会社 株式会社プレストコーポレーション 株式会社コミュニティネット
レタリア株式会社 GeNヒーローズ株式会社 株式会社ジェイコム埼玉東日本 株式会社サイホー
株式会社ライムスタジオ 株式会社一蔵キャメロットヒルズ 株式会社トーカイ戸田支店
株式会社矢部プロカッティング あいあいクリニック 株式会社MOYAI 株式会社ニシハタシステム

少子化対策、あるいは子育て支援の充実を図っているところではありますが、この部分だけを重視するのではなく、「子ども青少年のびのび希望プラン」というさいたま市独自の計画をしつかり定め、ライフステージごとにサポートができるような取り組みをしようとしています。その実現のために、今年度は約1721億円の予算を計上しました。これは前年比143・8億円増の過去最大の予算規模で作らせていただいたということです。特に日本にとってもさいたま市にとっても、最大の問題は、子どもを産み、育てやすい環境をいかに作っていくかということです。非常に重要だというふうに思っています。さいたま市として、ライフステージごとのサポートをして、子育てしやすい環境を作っていく。それは親と子の絆を深めていく支援ということとをテーマにしながら、いろいろ工夫して、考えてやらせていただいています。そして幼児教育、保育、この分野は非常に重要だというふうに私たちも思っていますので、幼稚園・認定こども園の皆さんにご協力をいただいて、子育て支援型幼稚園の拡大や特別支援学級に対する支援なども力を入れています。それと人材の確保のための取り組みなども進めさせていただこうと思っています。

会長 のびのび希望プランを私も拝見いたしました。そして実際に、子育て支援の予算を大幅に増額いただいていることも承知をしています。その上で、幼稚園協会の会長として市長に、提案とお願いがございます。その提案とは、子育て支援は十分なん

ですが、子ども支援にまだ不足を感じており、今後、子育て支援と子ども支援、このバランスの取れた政策を進めていただい、ということですが、子育て支援は、いわば働くお母さん支援です。しかし、幼稚園にはまだまだ専門主婦のお母さんがたくさんいらっしゃいます。そういったお母さんのほとんどは、働きたいんだけど、今は子どものために働くことは少し控えている。子どもが幼稚園に行っている間だけ働くことにして、まずは子育てを優先している。そう考えて、幼稚園にお子さんを預けています。そんなご家庭への支援は、まさに子育て支援に直結します。どうか市長の子ども支

援の一環として前向きに検討していただきたい。

市長 忘れちゃいけないのは、やっぱり子どもの目線で、どのように支援をしていくか、ということがすごく重要だと思っています。親だけの論理でもないといけない。その辺のバランスを取りながら、やっていかなければ。

会長 清水市長にはさいたま市のPTA連合会の会長を長く務めていただきました。幼児教育に対しても深く深い理解と、熱い支援、いつもありがとうございます。

さて、次に、いよいよ来年度から本格的にスタートすることも誰でも通園制度について、さいたま市の狙いをお聞かせください。

市長 はい、子ども誰でも通園制度については、家庭にいるだけでは得られない子どもたちのさまざまな経験や体験、これがすごく重要だという視点から、子どもの成長、育ちを応援して

ける取り組みとして捉えています。子育て支援型幼稚園を導入するときには、かなりいろいろ議論があったんです。働いているんだけど、やっぱり幼稚園に行かせたい。少し時代が変わってきたので、働かざるを得ない

というところもありますし、その中でできるだけ私たちとしては、子どもたち、そして子どもを育てる親御さんたちをしっかり応援しながら、いい環境で、子どもたちが優しくたくましく、感性豊かに育っていくことを願っています。非常に厳しい財政状況の中なので、なかなか皆さんの期待通りにいかないところもあるかもしれませんが、できるだけ努力をして参ります。

会長 親育ちという言葉があります。子育て支援型幼稚園では働いているお母さん方にも随分と幼稚園に通っていただけるようになりました。できるだけ多くのお母さんも育てていくぐらいの思いで私たちもやっています。

市長 幼稚園、認定こども園に通う方の意識は、子どもの時代に幼児教育を受けるという大切さを感じているご家庭だと思うので、ぜひよろしくお願ひしたいと思います。

会長 はい。私たちもさいたま市の子どもたちの幸せのために今後もより質の高い幼児教育を目指して取り組んでいきたいと思っています。市長と私の思いは同じだと感じています。すべてのことを子どもたちの幸せのために。

司会 お二人の清水様との対談で私も温かい気持ちになりました。温かい眼差しで、子どもたちを包む、育んでいくんだという思いを強く受けました。本日は長時間に渡り、ありがとうございました。

竹居秀子教育長と語る

「幼児教育と小学校教育の連携」

竹居秀子教育長は、2年前に現職に就きさいたま市の学校教育の陣頭指揮を執っておられます。幼稚園・認定こども園は、普段から教育委員会とは架け橋プログラム^{注1}や研修会を通じて密に連携しており、今回は同プログラムや幼児期の非認知能力と就学以降の認知能力の関係など、多岐にわたる話になりました。

会長 私は、さいたま市の子どもたちの学力の高さは、幼稚園や認定こども園が遊びや活動を通し伸ばしている「非認知能力」がベースになっていると自負しています。竹居教育長はいかがお考えでしょうか。

教育長 非認知能力は学力に代表される認知能力の土台となっていることに

加えて、幼児期から小学校低学年に育つのが効果的という研究成果もあります。現在、幼稚園や認定こども園において、遊びや活動を通して非認知能力の育成に注力していただいております。ことに感謝申し上げます。教育委員会でも、小学校低学年の段階から、認知能力とともに、非認知能力の育成にも力を入れているところで

会長 さいたま市において自己肯定感の高い子どもが多いことは、本市の幼児教育において非認知能力を育んでいることの表れだと言えますね。

教育長 本市の子どもたちの自己肯定感、全国学力・学習状況調査の質問調査において毎年全国平均より高くなっております。これは、各園が、「幼児期に非認知能力を伸ばすことが

小学校以降の認知能力・非認知能力の伸びに大きく関係すること」をよく理解した上で、幼児教育を進めていただいていることが大きな要因となっていると考えております。

会長 ある小学校では、「1年生は5月末まで4時間授業」を実施し始めました。小学校入学後の子どもの負担軽減と、スムーズな幼保小連携につながる取組と評価させていただいています。

教育長 毎年1年生が、小学校入学という急激な変化により疲れがたまり、心が落ち着かない状態が見受けられると考えたある学校では、今まで以上に少しずつ小学校生活に慣れていくことができるように、例年GW頃から5時間授業を開始していたのを、令和7年度からは5月末まで4時間授業に変更しました。その結果、トラブルも減少し子どもたちは落ち着いて生活でき、教室に入れない子どもの数も減ったそうです。この取組は、各学校の実態が違いため全ての小学校で実施できるものではありませんが、1年生の負担軽減、スムーズな幼保小連携の一つの具体的な事例として紹介することができると思っています。

会長 私は、架け橋プログラムの一環として、さいたま市の子どもたち（特に5歳児と小学校1年生）の交流の機会をもっと増やしてほしいと考えています。いかがですか。

教育長 例えば、小学校1年生の生活



科の学習で、5歳児を招待して一緒に遊んだり、小学校の生活を教えたりする交流活動を行っている学校があります。5歳児にとっては、小学校のことを知ること、入学に向けての不安が軽減したり、入学への期待感が高まる効果が期待できますし、自分が小学校1年生になったら、「今度は自分たちが招待する番だ」という意欲を持つことが予想されます。このような効果が期待できますので、教育委員会としても、5歳児と小学校1年生の交流は重要と考えております。今後は教育者同士の直接的な関わりを増やし、深めて参りましょう。教育をより良いものにするために。

会長 今後とも、子どもたちの連携をぜひよろしく願っています。



竹居教育長
×
清水会長

DIALOGUE



清水市長
×
清水会長

DIALOGUE



注1）架け橋プログラムとは、小学校と幼稚園・認定こども園が、カリキュラムや教育方法の充実・改善のために連携と情報の共有を図るプログラムのこと。